

舟岐川支流火打石沢遡行深沢下降

小沼 充範

- 山行年月日:2022年8月20~21日
- メンバー:小沼充範
- コースタイム:20日舟岐川林道 11:40
~深沢出合い 13:40
21日深沢出合い 8:10~引馬峠 10:
35~1981mピーク 11:10~深沢出
合い 13:40~舟岐林道 15:30

真夏の暑い日に藪漕ぎをして孫兵衛山の三角点探しには抵抗を感じる。それなら舟岐川支流黒沢の上流部となる火打石沢を遡行し、深沢を下降することにした。悪場もなく単独でも行けそうな沢に思えた。

8月20日。当日、朝7時半まで仕事のため仮眠をとり桧枝岐へむかう。黒沢右岸の林道入口に車を止め、11時40分出発。この林道は地形図に記されておらず、車で入れるようだが、状況がわからないので歩くことにした。12時20分、三角点1771mピーク西側の斜面で林道は終点となり、4駆の車はここまで入ることができる。この先は林道が荒廃し細々とした道が続いている。

12時45分、越ノ沢に架かる橋に到着する。再び明瞭な踏跡をたどって行く。13時40分、深沢出合いに到着する。橋を渡り、その先で孫兵衛山を目指す、尚子さん美和子さんのパーティーと合流する。参加予定であった利伊さん保科さんと会えなかったのは残念である。雨が

本降りとなり、雨具を着込んで早々にテントを張る。日本気象協会の予報通りだ。夕方になると雨が止む。早い時間から酒を飲むことができ、山の話に花を咲かせた。標高が高いため、とても涼しく蚊もおらず、快適な泊まり場である。

8月21日。孫兵衛パーティーは朝早く出発し、私は8時40分に出発する。荒廃した林道をたどると、つづらおりとなり、火打石沢に橋が架かる。踏跡は右に曲がってさらに続いているようだが、橋から下りて入渓する。

沢の右岸は大きなガレの斜面となり、2m、2mと滝が現れ、8時50分、左岸から孫兵衛山へ突き上げる枝沢が入る。ナメ床を進むと左岸の上部に石垣が見え、その先で林道は終点となっているようである。4m3段、2m、と滝が現れ、3m滝は右側から登る。長いナメが続き、美しい流れである。

10時、最後の二俣の手前で孫兵衛パーティーと出会う。引馬峠から引き返したようで、峠にプレートと水準点を確認することができなかつたようである。最後の二俣を左俣に入る。周囲は下草の薄いオオシラビソの森が広がる。水流が尽き、平坦部を東に進むと、10時35分、引馬峠に到着する。峠でプレートと水準点を確認する。この水準点は日本で最も標高の高い所にある水準点石のようである。引馬峠はこれで2度目であり、無

雪期の峠は初めてである。桧枝岐の茅葺職人は、この峠を越えて川俣へ行ったようであり、平五郎山へ延びる尾根上に峠道の痕跡を見ることができる。

背丈の低い笹藪を県境に沿って登るとサイコロ状の大きな岩が点在する。岩の上に上がると西に黒岩山と孫兵衛山を望むことができた。尾根上は藪がうるさく西側斜面をトラバースする。11時10分、1981mピークに到着し、三角点を確認する。

昔は田代山と黒岩山の間に縦走路があったようだが、今はその痕跡すら見当たらない。コメツガの倒木が多いため歩きにくく、枝の部分が鋭い突起となっており、足に当たらないよう注意する。

11時40分、1938mピーク南側の鞍部に到着し、深沢へ下降する。最初は大小の石が転がる急な下りであり、すぐに水流が現れる。2m滝を下ると右岸から枝沢が入り、少し下ると2段6m滝を掛けて左岸から枝沢が入る。2段5m滝を下ると左岸から枝沢が入る。沢は穏やかな流れとなり、ワイヤーの残骸を見かける。昔、伐採されたのだろうか、周囲には大きな木が見当たらない。

2段4m滝を下り、しばらく進むと樋状3m滝が現れ左岸から巻いて下りる。目の前に橋が現れ左岸を登ると、私だけのテントが取り残されている、13時40分到着。テント、荷物を撤収し、14時、深沢出合いを出発する。

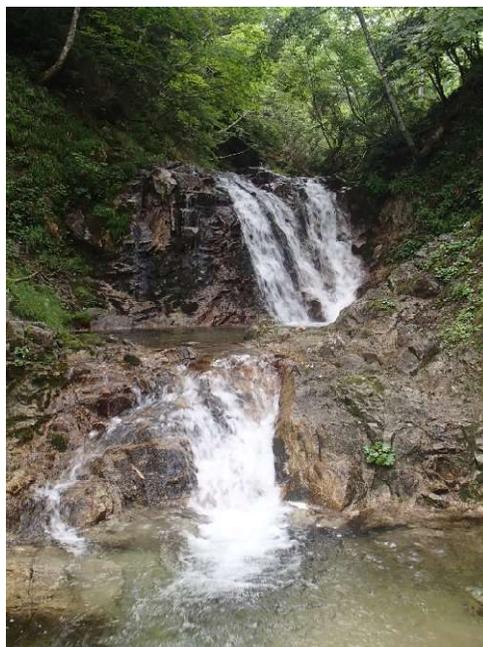
踏跡を歩いている途中、雨が降り出し雨具を着る。雨足が次第に強くなり、木陰で雨宿りし、雨足が弱くなってから再び歩き出す。15時30分、舟岐林道に到

着する。

火打石沢はナメが発達し、きれいな沢である。標高が高いためメジロアブ、蚊がいらないため快適な遡行を楽しむことができた。



引馬峠



深沢 4m滝